

一般障害者病棟用 新人教育プログラムと行動予定表

部署名

<レベルⅠ 熟達段階 助言を受けて基本的な看護実践ができる>

1. 職場に適応する。 2. 一般障害者病棟の看護実践に必要な基本的能力を習得する。

＊ミタ：新人を援助し、味方となり、指導・助言し、相談にのる役割。直接的な実地指導者とは別。支援的役割

＊フタ：決まった相談相手。生活面・精神面広範囲にわたり支援する。

	新人月間目標	行動予定	プリセプター	一週目	二週目	三週目	四週目	五週目
3月			各部署教育体制を整える。 ・ミタ・フタを決める。 ・各病棟の準備 ①教育プログラムの構築 ②教育観の統一 (どのように育てていくか)					
4月	1. 学校で学んだ看護技術の確認と臨床現場に慣れるための一カ月 ①社会人として自覚ある行動ができる ②病院・病棟の構造が分かる ③業務の種類が分かる ④患者さんと触れあうことができる ⑤患者さんの侵襲の少ない基礎看護技術を実践することができる	・病棟オリエンテーション ・新人オリエンテーション受講 ・日々受け持ちシャドーイングの開始 ・介護業務見学から実践まで実施	・関係構築を開始する。 ・育成プログラム通りに開始する。 ・新人がプログラムについていけているか注視する。 ・振り返りシートが使用できているか確認する。 ・実地指導者から適切な指導がなされているか確認する。	同期と交流を図る	・病棟の構造を知る。 ・病棟の環境になれる。 ・病棟の日勤業務の流れを知る。 ・医師の診療科を理解する ・介護福祉士との業務や関係性を理解する。 ・医事課との関係性を理解する。 ・クラークの業務や関係性を理解する ・地域連携室との関係性を理解	・日々受け持ち業務のシャドーイング開始。 ・日々受け持ちの一日の動きを知る。 ・オムツ交換を見学しその後実践に入る。 ・カンファレンスに参加し雰囲気になれる。 ・患者さんの顔と名前を覚える。	・早番・遅番業務の見学に入り、早番遅番の業務内容を知る。 ・入浴介助を見学し、その後実践に入る。 ・配茶を見学する。	・日々受け持ち業務のシャドーイングの継続 ・早番・遅番の実践業務の開始
5月	1. 実地指導者の指導のもと、1～4名の患者を受けもち、日々受け持ちの流れが分かる。 ①基本の看護技術の修得・実践ができる ②電子カルテから情報収集ができる ③日勤業務に慣れる ④職場環境に適応できる 【振り返り・評価日】 5月 日 時 分	・担当看護師と共に患者を受け持ち患者ケアを行う ・検査・処置の介助ができる ・入院対応を見学する	・関係性の構築を引き続き徹底する。 ・実施指導からの情報交換を行い、多重課題にむけての課題を明確にする。	・日々受け持ち業務のシャドーイングの継続 ・早番・遅番の実践業務の開始	・指導の指導のもと、日々メンバー業務を開始する ・情報収集を行う事ができる。 ・バイタルチェックを実施する事ができる。 ・看護記録を入力する事ができる。 ・点滴・注射の見学をする。 ・胃管・尿管挿入の見学をする。 ・ストマ管理の見学をする。	・指導の指導のもと、日々受け持ち業務を開始する ・情報収集を行う事ができる。 ・バイタルチェックを実施する事ができる。 ・看護記録を入力する事ができる。 ・点滴・注射の見学をする。 ・ストマ管理の見学をする。 ・経管栄養を作る事ができる。 ・経管栄養の内服薬を作成する準備を見学する。	・指導の指導のもと、日々受け持ち業務を開始する ・情報収集を行う事ができる。 ・バイタルチェックを実施する事ができる。 ・看護記録を入力する事ができる。 ・点滴・注射のチェックを指導のもと実践に入る。 ・胃管・尿管チェックを指導のもと実践に入る。 ・ストマのパウチ交換を指導のもと実施する。 ・経管栄養を作る事ができる。 ・経管栄養の内服薬を作成ができる	・指導の指導のもと、日々受け持ち業務を開始する ・情報収集を行う事ができる。 ・バイタルチェックを実施する事ができる。 ・看護記録を入力する事ができる。 ・点滴・注射のチェックを指導のもと実践に入る。 ・胃管・尿管チェックを指導のもと実践に入る。 ・ストマのパウチ交換を指導のもと実施する。 ・経管栄養を作る事ができる。 ・経管栄養の内服薬を作成ができる
				研修名 院内新人研修1日目、2日目	研修名	研修名 院内新人研修3日目	研修名 中国人看護師研修	研修名 茶話会
6月	1. 実地指導者の指導のもと3～6名の担当患者を受け持つ ①基本の看護技術の習得・実践ができる ②報告・連絡・相談ができる ③担当患者を通して看護過程が展開できる ④看護記録の入力ができる（確認必要） ⑤指導のもと転棟準備ができる ⑥指導のもと転棟対応ができる 2. 夜勤体験 ①基礎看護夜勤で夜勤の雰囲気を知る	・日勤業務の独り立ちができる ・予定入院を指導のもとうけることができる ・採血・血糖チェックができる ・インスリン注射が指導のもと実施する事ができる ・転棟準備ができる ・転棟対応ができる ・技術チェック ・夜勤を体験する	・ミタは自己効力感を高められるよう、自信が持てるよう支援していく。 ・不足している技術や経験が網羅できるよう、積極的にチーム内へ働きかけ、新人が経験できるように努める。 ・夜勤体験の感想を確認する		・日々受け持ち業務を一通りできる。 ・採血・点滴ができる。 ・胃管・尿管などの挿入留置の独り立ちができる。 ・報・連・相ができる。 ・転棟の準備と対応が指導をうけてできる。 ・早番・遅番の独り立ちができる。	・日々受け持ち業務を一通りできる。 ・採血・点滴ができる。 ・胃管・尿管などの挿入留置の独り立ちができる。 ・報・連・相ができる。 ・転棟の準備と対応が指導をうけてできる。 ・早番・遅番の独り立ちができる。	・日々受け持ち業務を一通りできる。 ・採血・点滴ができる。 ・胃管・尿管などの挿入留置の独り立ちができる。 ・報・連・相ができる。 ・転棟の準備と対応が指導をうけてできる。 ・早番・遅番の独り立ちができる。	・日々受け持ち業務を一通りできる。 ・採血・点滴ができる。 ・胃管・尿管などの挿入留置の独り立ちができる。 ・報・連・相ができる。 ・転棟の準備と対応が指導をうけてできる。 ・早番・遅番の独り立ちができる。
				研修名	研修名 アイナース フィジカルアセスメント	研修名	研修名 アイナース メンバースhip・災害看護 中国人看護師研修	研修名 茶話会

	新人月間目標	行動予定	プリセプター	一週目	二週目	三週目	四週目	五週目
7月	1. 実地指導者の指導を受けながら3～5名の患者を受け持つ ①重症患者の観察ができる ②ME機器の取り扱いができる（輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器・モニター・S a o 2モニター） ③指導のもと急変時の対応ができる ④担当患者を通して看護過程の展開ができる ⑤入院対応の独り立ちができる ⑥転棟対応の独り立ちができる 【振り返り・評価日】	・人工呼吸器の日々担当が指導のもとできる ・入院の対応ができる ・転棟対応ができる ・ME機器の取り扱いやアラームの管理ができる ・所属長面談	・チームメンバーとしての自立を目指し、見守りながら指導を行う。	・人工呼吸器の患者さんを指導のもと2回担当し、その後独り立ちする。 ・入院の対応を指導のもと経験する。その後独り立ちする。 ・転棟対応の独り立ちする。				
				研修名 アイナース KYT	研修名	研修名	研修名 中国人看護師研修	研修名 茶話会
8月	1. 実地指導者の支援を受けながら3～6名の患者を受け持ち、多重課題がこなせるようになる。 2. 看護夜勤業務の刺しこみを受ける。 ・急変時対応、死亡時のエンゼルケア対応&家族対応&医師対応。 ・上記日本語でのロールプレイングで実施する。	・指導を受けて重症患者を受け持ちことができる ・人工呼吸器の日々管理が自立できる ・前日に受け持っている患者1～3名の看護行為実践	・日勤の受け持ち人数を調整しながら、終業できるよう配慮する。 ・個人の成長に合わせて、看護夜勤業務に入れるよう準備を始める。 ・多重課題がこなせていけるようであれば、早めにフォロー付きの看護夜勤に慣れていく。 ・看護夜勤フォロー者は、教育担当者もしくは教育担当主任がベスト看護夜勤前に入院受けができるようにしておく。	・外来応援を開始する。 ・緊急入院をうけることができる。 ・日々受け持ち患者を6名まで受けもつことができる。 ・勤務時間内に記録を実施する事ができる。				
				研修名	研修名	研修名	研修名	研修名 アイナース 認知症看護
9月	1. 実地指導者の支援を受けながらチームメンバーとして患者を受け持ち、多重課題がこなせるようになる。 ①患者の必要としている理解し実践できる 2. 看護夜勤業務の刺しこみを受ける。 3. 看護夜勤業務に入り始める。	・指導を受け看護夜勤業務開始 ・指導を受けて終末期の患者を受け持つことができる	・個人の成長に合わせて看護夜勤の一人立ちをしていく。 ・部署内での差は、できる限り回避する。 ・急変時の対応もできる限りシュミレーションを行い、また、実際に起きた場合は関われるように調整する。	・CVやFDL留置の介助を見学する。 ・看護夜勤の見学を行う				・CVやFDL留置の介助の独り立ちができる。
				研修名	研修名	研修名	研修名 アイナース 終末期	研修名
10月	1. チームリーダーとメンバーの支援を受けながら患者を受け持ち多重課題をこなせるようにする。 2. 個人の成長に合わせて、看護夜勤業務に入り始める。	・受け持ち患者の看護診断・計画立案・実践評価ができる	・個人の成長に合わせて看護夜勤へ入れていく。 ・部署内での差は、できる限り回避する。 ・急変時の対応もできる限りシュミレーションを行い、また、実際に起きた場合は関われるように調整する。 ・チューターと半年の振り返りを行う。	・日々受け持ち患者を10人まで受け持てるようにする。 ・勤務時間内に記録が終わる。				
				研修名	研修名	研修名	研修名 アイナース 褥創	研修名 茶話会
11月	1. チームリーダーとメンバーの支援を受けながら患者を受け持ち多重課題をこなせるようにする。 2. 受け持ち看護師として、1～2名の患者を担当する。 ①受け持ち患者の看護診断・計画立案・実践評価ができる 【振り返り・評価日】 11月 日 時 分	・看護夜勤リーダー業務の経験をする	・入院受けをおこなった患者から受け持ち看護師として担当する。 ・受け持ち患者に対する責任を自覚できるよう関わる。 ・看護夜勤に入り始めてからの課題を明確にする。	・受持ち看護を開始する ・看護計画の評価を実施する ・勤務時間内に業務を終了する事ができる				
				研修名 アイナース KYTフォローアップ	研修名	研修名	研修名 アイナース 終末期	研修名 茶話会

	新人月間目標	行動予定	プリセプター	一週目	二週目	三週目	四週目	五週目
12月	1. チームリーダーとメンバーの支援を受けながら患者を受け持ち多重課題をこなせるようにする。 2. 受け持ち看護師として、1～2名の患者を担当する。 ①受け持ち患者の看護診断・計画立案・実践評価ができる	・看護夜勤リーダー業務の経験をする	・入院受けをおこなった患者から受け持ち看護師として担当する。 ・担当患者に対する責任を自覚できるよう関わる。 ・看護夜勤に入り始めてからの課題を明確にする。	・これまで修得した技術で不明な点を明確にすることができる。 ・自己学習野の到達度や不足に気づき、指導者に伝える事ができる。 ・病棟業務上の看護を実践するためのコミュニケーションが図れる。 ・業務上の疑問点・問題点を指導者に伝えることができる。				
				研修名 アイス 認知症フォローアップ	研修名	研修名	研修名	研修名 茶話会
1月	1. チームリーダーとメンバーの支援を受けながら患者を受け持ち多重課題をこなせるようにする。 2. 受け持ち看護師として、1～2名の患者を担当する。 3. 看護夜勤業務が3～4回/月行える。		・個人の成長に合わせた夜勤回数、日勤の受け持ち人数を調整しながら、終業できるよう配慮する。	・看護実践における倫理的側面を理解できる。 ・病棟勤務に起こりやすい医療事故を理解する事ができる。 ・安全安楽の視点で看護実践が行える。 ・支援を得ながら急変や、異常時の看護記録が入力でき継続する問題を明確にし申し送ることができる。				
				研修名	研修名	研修名	研修名	研修名 茶話会
2月	1. チームリーダーとメンバーの支援を受けながら患者を受け持ち多重課題をこなせるようにする。 2. 受け持ち看護師として、1～2名の患者を担当する。 3. 夜勤業務が4～5回/月行える。 【振り返り・評価日】 2月 日 時 分		・個人の成長に合わせた夜勤回数、日々受け持ち人数を調整しながら、終業できるよう配慮する。	・約束指示から適切な薬剤を選択することができる。 ・ご家族と電話でコミュニケーションを取ることができる。 ・医師の指示を受けることができる。 ・医師の指示を受けたら日々リーダーに報告することができる。				
				研修名	研修名	研修名	研修名	研修名 茶話会
3月	1. チームメンバーとしての役割をこなし、基本的な各部署の看護実践が行える。 2. 自己の課題を明確にして、2年目への準備ができる。		・一年の振り返りと次年度への課題の明確化と努力したことをきちんと評価し、ねぎらう。	・一年を振り返り、未経験の業務があれば実施する。				
				研修名 アイナース リフレクション	研修名	研修名	研修名	研修名 茶話会